

日比谷公会堂と近代日本

—公会堂の歴史から、この国の政治と音楽の歩みを考える—



現在の日比谷公会堂



昭和35年以前の内部の様子

大規模改修工事のため、2016年3月末をもって長期休館となる日比谷公会堂。その完成は1929年でした。1925年の普通選挙法の制定、1928年の初の衆議院総選挙など政治的演説を市民みんなで聴くホールは時代の要請であり数々の演説会などが繰り広げられました。また、そうして生まれた公会堂は音楽演奏会場としても重要な場所となりました。戦前のヨーゼフ・シグティ、アルトゥール・ルービンシュタイン、リリー・クラウスの日本初演や戦後のカラヤンの初来日コンサートなど、綺羅星のごとく枚挙に暇がありません。

この日比谷公会堂の歴史から近代日本の政治と音楽の両方について、政治思想史研究者として、また、音楽評論家として著名な片山杜秀氏が語ります。

講師 片山 杜秀 (かたやま もりひで)

政治思想史研究者、音楽評論家、慶應義塾大学法学部教授。著書に『未完のファシズム』『見果てぬ日本』（以上、新潮社）、『近代日本の右翼思想』（講談社）、『ゴジラと日の丸』（文藝春秋）、『音盤考現学』『音盤博物誌』（以上、アルテスパブリッシング）などがある。吉田秀和賞、サントリー学芸賞、司馬遼太郎賞などを受賞。



開催概要

- 日時：2016年3月19日（土）14:00～15:30（13:30 開場）
- 会場：日比谷図書文化館 4階 スタジオプラス（小ホール）
- 定員：60名（事前申込順、定員に達し次第締切）
- 参加費：1,000円
- 申込方法：来館（1階受付）、電話（03-3502-3340）、Eメール（college@hibiyal.jp）いずれかにて
 - ① 講座名、②お名前（ふりがな）、③電話番号をご連絡ください。